

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームいこいの家	評価実施年月日	平成19年10月11日
評価実施構成員氏名	三上啓子 澤田京子 太田明子 安井範章 佐久間大樹 東出裕之 立山美樹子 三上咲重		
記録者氏名	三上啓子	記録年月日	平成19年9月3日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設時に基本理念・ケア理念を定め、これにより運営してきている。	○	平成15年4月の開設時の基本理念・ケア理念の見直しを進めている。地域交流も柱に置く。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理室、ホールの壁に貼り、常に意識できるように、また、ミーティング他、介護の中で折に触れ確認し合うようにしている。	○	継続
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム便りを活用している。また、地域のイベントに参加し、事業所の実践を伝えるようにしている。町内会会報の活用も図っている。	○	継続
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日光浴、散歩、買い物などに出かけ、近隣に住む人たちと触れ合う機会が多く、声掛けをし合っている。また、地域のボランティアさんに来ていただいている。	○	継続
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	秋まつり、公園の草むしり、花植などに利用者様と共に積極的に参加している。また、町内会にも加入している。	○	継続
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	将来、介護職を志望している大学生のボランティアさんを受け入れている。地域広報に認知症の相談に応じることを記載し、相談を受けている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義や目的を全職員で理解し、自己評価に取り組み、改善策については、具体的に検討してきている。</p>	<p>○ 継続</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議では利用者の状況やサービスの実際について協議し合い、評価については、報告し、改善計画と実践内容を、意見を元に進めている。</p>	<p>○ 継続</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市職員とは研修の機会などでサービスの質の向上に向けた話し合いをもち、保健所、消防署職員とも連絡を取るようになっている。</p>	<p>○ 継続</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護制度は、運営者、管理者その他一部職員しか学ぶ機会を持ち得なかった。学ぶ機会を増やしていく。利用者にはご家族が定期に来られ活用する現況にない。</p>	<p>○ 継続</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法は、運営者、管理者その他一部の職員しか学ぶ機会は持ち得なかった。機会作りに努め、防止の徹底を図っていく。</p>	<p>○ 継続</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間をとって丁寧に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化により、契約解除に至る場合は、ご家族のほか、本人を交えて対応方針を相談していく。</p>	<p>○ 継続</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情は、その都度職員誰もが傾聴するよう心がけている。また、利用者ご家族に対しても意見箱を設け、苦情解決制度も出来ている。日常生活の中で利用者の思いを聞くことを第一に運営を進めている。	○	継続
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に入居者の近況を伝えたり、あまり面会に来られないご家族には電話連絡や写真同封の手紙を送付している。出納帳には、ご家族に内訳を説明し確認のサインをいただいている。	○	継続
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にはご家族の代表者も加わって意見をいただき、また、訪問時、何でも言っていたりするような雰囲気作りに努め、出された意向等にミーティング等で話し合い、反映されている。	○	継続
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り、定期勉強会、職員会議の他、日常会話の中でいろいろな機会に職員の意見や提案を聞くようにしており、反映されている。	○	継続
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員全員のローテーション勤務表を作り、これにより勤務に当たっているが、利用者の状態変化などに柔軟に対応し合う意思疎通が職員間に出来ている。	○	継続
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職などで、利用者の馴染みを欠き不安に陥ることのないよう、引継ぎに心掛け、利用者への自己紹介、話し合いなどを丁寧に時間を掛けて行っている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	サービスの質の向上に向け、外部研修の受託、会議等でのその報告、働きながら学ぶ職場研修などに努めている。	○	一層の習熟度に応じた研修に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者連絡会があり、学習会、他グループホームへの見学や、自習をし、意見交換をし合い、ケアに活かしている。なお、全国・北海道グループホーム協議会に参加し、情報を得、研修会に参加している。	○	さしあたって、9月、10月、11月の間に3日間、他施設への見学者を職員全員が行う計画である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常のストレスや悩みを把握するように努めている。また、親睦の場を作り、気分転換を図る機会を作っている。休憩室も用意している。	○	継続。ストレス解消の取り組みを進めていく。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	労働基準法、安全法を守った労働条件や健康診断を行っている。職員の資格取得に向けた支援も行っている。	○	より上の資格取得者に対する手当の創設を進めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談で必ずご本人に会い、生活状態や要望、不安を把握するよう努め、生活の場としてきっちり受け止めていただけるよう支援している。	○	継続
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	介護はご本人はもとより家族との信頼関係が基礎になくはない。家族とのチームワークを大切にサービスに努めている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族の思いや状況等を確認し、信頼関係の上に立って、保健、医療、居宅ケアマネとも連携をし、より良い生活作りを進めている。	○	継続
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居もお勧めし、入居決定時にはご本人やご家族と十分に話し合い、本人の納得を最優先にしている。	○	継続
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として、日常教えていただく場面が多く、支援する側、支援される側といった垣根をはずし、和やかな生活が出来る場面作りや声掛けをしている。	○	継続
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人、ご家族の思いを傾聴し、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご家族とのチームワークで支援している。	○	継続
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	疎遠のご家族には、手紙や電話、日常を写した写真を送付している。また、入居者に対しては、ご家族宅への外泊など、ご本人とご家族との距離が離れないよう努めている。	○	継続
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	墓参り、温泉、外泊、外出、訪問、買い物等、継続的な交流が出来るような働きかけに努めている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、利用者が孤立することのないように努めている。また、トラブルの時はさりげなく仲介し、話題を切り替えるなどし、不快な気持ちを紛らわさせていただくなどしている。	○	継続
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された利用者やご家族に手紙等を送り、継続的な付き合いが出来るように心掛けている。	○	継続
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との関わりの中で、言葉や行動や表情で思いや意向を把握するように努める一方、ご家族からも情報を得るように努めている。	○	継続
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族、関係者から聴き取るようにしている。訪問時等、生活歴や病歴など多方面の情報収集に努め介護に活かすように心掛けている。	○	継続
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを日頃の行動や動作から把握し、ご本人自らが出来る事に注目し、さらにそれを活用、伸ばして差し上げるように努めている。	○	継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、関係者の思いを取り入れ、アセスメントを含め、職員全員でカンファレンスを行い、計画作成担当者のもとで介護計画を作り、実践している。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	継続
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	継続
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	地域の方のご好意により、施設の近所の方2名が一週間に三日、囲碁ボランティアとして来られている。また、日曜日には、学生ボランティアによる、散歩、ゲームなどを大変喜ばれている。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	○	継続
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療は月に2度、歯科往診は月に3、4日程度あり、他専門医療機関への定期健診など、ご家族と協力し合いながら通院介助を行っている。24時間オンコール体制は新札幌聖陵ホスピタル(医療連携契約)	○	継続
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医師、協力医療機関等と連携し、認知症に関する診断や治療を受けられるようにしている。	○	継続
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間オンコール体制が整っており、気軽に相談できる関係を築いている。また看護師2名が配置されている。	○	継続
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人の情報を医療機関に提供しており、頻繁に職員が見舞うようにしている。また家族とも情報交換を行いながら回復状況を聞いて退院支援に結び付けている。	○	継続
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	日常の健康管理や急変時に対応できるように家族、医師、看護師を交えて話し合う体制が出来ており、重度化や終末期の指針を定め、ご本人やご家族に説明し、了承を得ている。	○	継続
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように折に触れてこれら関係者の意思を確認しながら取り組んでいる。急変した場合はすぐ対応していただけるよう医療機関と契約済みである。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプラン、支援状況の記録等を手渡し、なじみの職員が機会を作って訪問に行くなどしている。	○	継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	介護の場では、さりげない言葉掛けや対応に配慮している。ミーティングのときなど常に介護させていただいているという思いを基に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	○	継続
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の意思を最大限汲み取って介護に当たることを念頭に、言葉での意志表示の難しい人には表情やメモによる方法でたしかめ支援するよう努めている。	○	継続
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員のスケジュール消化を廃し、その時々本人の気持ちや体調を尊重し、出来るだけ個別性のある支援を行っている。	○	継続
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみは本人の自己表現として大事にされるべきであり、着替えは基本的には本人の意向で決めているが、支援が必要な時には手伝うようにしている。なお、訪問理美容を利用され、自身の意向を美容師に伝えるなどしていただいている。	○	継続
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	同じ食卓で職員も一緒に食事し、楽しい雰囲気作りに努め、軟らかさや大きさにも配慮し、体調に合わせて調理、盛り付けしている。片付け等は、出来る方には職員と一緒にしている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は利用者が飲みたいものを飲んでいただけるよう、ご本人に意向を聴いている。また、おやつは硬いものが苦手な方には、軟らかいものをお出しするなどし、喜んで食べていただけるように努めている。	○	継続
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表によりパターンを把握しており、尿意のない利用者にも時間を見計らって声掛けや誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	○	継続
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の希望や体調に合わせている。拒否のある時は、本人の意向に合わせ柔軟に対応している。	○	継続
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	散歩、日光浴、運動などで生活リズムを整えるように努め、安眠につなげている。	○	継続
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の得意分野を把握し、本人の自立度に適した仕事をやっていただいている。また、職員から感謝の言葉を掛けるなどし、張り合いを感じていただけるような生活に心掛けている。	○	継続
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはホームにて預かっているが、家族と相談し、入居者の心身状況等に応じ可能と思われた方には自己管理していただいている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日、散歩や日光浴など、状況や入居者の希望に沿って戸外に出掛けていただけるよう支援している。また、体調を見て、買い物に出掛けるようにしている。	○	継続
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	思いや願いを叶えられるよう、利用者、家族と相談し、職員の勤務を調整しながら行っている。	○	他の事業所とも共同し、バスで外出するなどのレクリエーションも催したい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族や友人から電話のあった時は、職員は側に付き添い、入居者が受け答えできるよう支援している。手紙のやり取りも出来るように相談に乗るなど支援している。	○	継続
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者に対してどう対応したら良いのかわからない面会者には、さりげなく間を取り持つように支援している。また職員はご家族にお茶をお出ししたり日々どのように過ごされているかをお話して差し上げている。	○	継続
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は、生命保護等ごく限られた場合に限り必要最小限の例外であるという認識を職員一同が共有し、拘束のないケアをしている。	○	継続
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵は掛けない。単独で外出する気配を見落とさないように心掛けながら、安全のため、ブザーを設置している。隣近所の方には見守り連絡などお願いしている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は作業を行いながら、さりげなく入居者の状況を把握するように配慮している。また、夜間は定時に声掛けや見守りを行い、状況に応じて見通しのきく廊下などで待機している。	○	継続
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況を把握し、それに応じた保管、管理をしている。包丁や洗剤等の物品は厳重に保管すべき物品として管理しているが、その他は利用者の状況を見つ、危険のないように心掛けている。	○	継続
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを記録し、職員の共有意識を図っている。事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策と併せて家族への説明と報告を行っている。	○	継続
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の身体状況の急変時には、医療機関と看護師とのオンコール体制を確立している。緊急時対応についてマニュアルを整備、連絡網を作成し、周知徹底を図っている。	○	AEDの使用方法等の研修などを厚別区民センターで実施予定
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2～3回、利用者とともに定期的に避難訓練を行っている。協力体制については近隣の方々に協力を呼び掛けを行い、運営推進会議を通し町内会に協力を呼び掛けている。また、消火器等の点検を励行している。	○	継続
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全を優先するのはもちろんだが、リスクを踏まえた上で、入居者自身の持つ力を発揮できるよう支援。抑制感の無い暮らしが出来るように対応している。	○	継続
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行ったり常に顔色の変化などに気を配り、記録に残し、異常の早期発見に活用している。医療受診時や往診時には、医師にそれらを説明、提示し早期発見に努めている。	○	継続
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をケース毎に整理し、職員が副作用等の内容を把握できるようにしている。服薬時はご本人に手渡し、確実に内服していただけるよう見守りを行い、症状の変化に気をつけている。	○	今後、薬の目的や副作用、用法や用量について再確認したい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、散歩、レクリエーションをする事によって、自然排便を促すよう取り組んでいる。下剤を使用されている場合は、その日の排便状況や体調などに合わせ使用量の調節を行っている。	○	継続
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯みがきの声掛けやうがいの介助を行っている。また、義歯洗浄の声掛けや誘導をしている。	○	継続
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、必要な食事や水分量が摂る事の出来るよう、看護師に点検してもらっている。	○	継続
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を行っている。処置介助時はグローブを使用したり、オスバン液やスキッシュ(共に消毒液)を適宜使用、うがい等も励行し予防を徹底している。また、マニュアルを作成し、全職員が予防対策に努めている。	○	継続
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板の消毒を全職員に徹底。また、布巾は頻回に交換している。冷蔵庫や冷凍庫の清掃に努め、食材の鮮度にも気をつけている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	民家改造型のホームで設備も家庭的であり、温かい雰囲気になるよう配慮している。玄関先にベンチ、プランターなども設置し、ベンチに座っての日光浴時に目を楽しんでいただいている。	○	継続
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	階段、廊下には手すりや滑り止めなどを設置している。玄関の床面にもマットを使用している。庭に木々があり、葉の揺れや、小枝に止まった小鳥の姿などを見て、季節感を感じていただいている。	○	継続
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に談笑していただいている。孤立しがちな方には、職員が入り話題を提供し全員でくつろげられるように楽器やゲームなどを用い配慮している。	○	継続
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた生活用品を持ち込まれその方らしい部屋作りをされている。	○	継続
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天窓を利用したり冬場は加湿器、濡らしたバスタオルを利用して、居室の温度や湿度に配慮している。また、適宜空気の入替えも行っている。トイレは換気扇と消臭剤を使用し、悪臭の発生を防ぐよう工夫をしている。	○	継続
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状態に合わせて、手すり付きの浴室やトイレ、廊下等の居住環境の中で、どのようにしたらご自身の力で日常生活動作を行っていただけるかを考え、安全確保と自立への配慮をしている。	○	継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人の状況に合わせて環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員一同で話し合い、利用者の不安材料を取り除くように支援している。</p>	<p>○</p>	<p>継続</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>散歩の後、涼みながらジュースを飲んでいただいたり、日光浴が出来るように、玄関先に花やベンチを設置している。部屋に閉じこもりの入居者は往診後、医師や看護師の見送りをするために外に出て来られ、外気に触れたり日光浴をしつつ、花を見ながら談笑を楽しまれるなど、有効に活用している。</p>	<p>○</p>	<p>庭に畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動が出来るようにしていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) より多く元気な笑顔や楽しい笑い声が溢れるホームを目指し、職員一同努力している。